

食べられる野生の胡桃

オニグルミ

クルミ科クルミ属

落葉高木。川岸や谷沿いなど湿り気の多い場所に多く自生します。葉は大型の長さ 40 ～ 80 cm の奇数羽状複葉で、小葉は 5 ～ 9 対、長さ 8 ～ 18 cm にもなります。オニグルミは葉裏や葉軸に毛が多く、ザラザラした触感です。似ているサワグルミは毛が少なく、触ってもザラザラしないので、見分けられます。その芽吹きは不思議な形をしていて、まるでエイリアンが殻を突き破って出てきたようです。

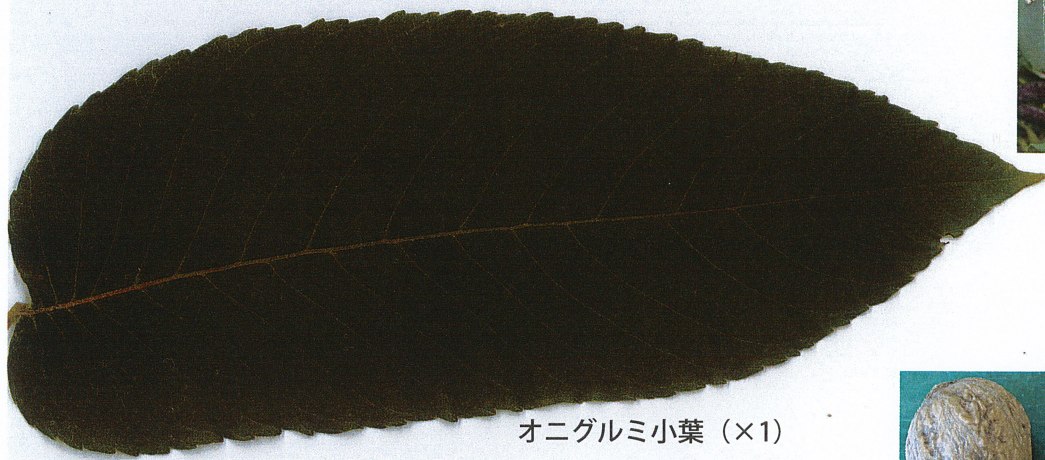
雄花は緑のひものように垂れ下がり、雌花は真っ赤でピースしたような形で直立します。風媒花で、受粉すると毛が生えた緑色の実ができます。実は熟して落下すると皮が黒くなり、中からあの硬いクルミが出てきます。

材は程よい柔らかさを持ち、丈夫で肌触りもよく、建築、家具、機械用材として幅広く利用されています。また、適度な硬さと変形しにくい性質を持つことから、昔はどの国でも銃床として用いられ、日本でも明治時代から昭和初期にかけて軍需用として大量に伐採されました。

園内各所に自生していますが、みずばしょう園向かい側にある木は、道路より低い場所から生えているため、高木ですが近くで花や実が観察できます。



【夏の様子（若い実）】 2019.7.28



オニグルミ小葉（×1）



【拾ったクルミの実】



【樹皮】 2024.3.14



オニグルミ葉（×0.3）



【冬芽】 2020.3.26



【芽吹き】 2025.5.12



【枝先の花と新葉】 2021.6.21



【雌花】 2025.5.24



【雄花】 2020.6.1